

薬学部 臨床薬学科 カリキュラム・マップ 2025・2026

凡例 科目区分 (再掲は薄色表示) 基幹教育必修 学部必修 学部選択 卒業・進級判定に含めないが、履修することを推奨する

学年		1年生				2年生				3年生				4年生				5年生				6年生					
学修目標		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
知識・理解の実践的場面での活用(実践)	E-3. チーム医療に参画するための基礎的な知識・技能およびコミュニケーション能力を持っている。	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	課題発見科目 創薬科学総論Ⅲ	学術アプローチ チ科目 早期体験学習				薬学基礎実習Ⅰ+Ⅱ	薬学基礎実習Ⅱ+Ⅲ+Ⅳ	卒業研究				インフォームド・ コンセント	チーム医療演習	臨床倫理										
				創薬科学総論Ⅳ																							
		創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ		早期体験学習																					
			創薬科学総論Ⅳ																								
					医療における倫理							社会と健康								臨床倫理							
	早期体験学習																										
E-2. 豊かな人間性とともに、医療人としての深い感性や高い倫理観を持っている。																											
E-1. 医薬品の適正使用を推進するため、服薬指導・薬歴管理・リスクマネジメント・効果的で安全な薬物療法の提供など、薬剤師としての技能を習得している。																											
新しい知見の創出(評価・創造)	D-2. 自ら主体的に創薬研究を遂行するための基礎能力を持っている。	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ		早期体験学習		安全教育	薬学基礎実習Ⅰ+Ⅱ	薬学基礎実習Ⅱ+Ⅲ+Ⅳ	薬学基礎実習Ⅲ+Ⅳ	卒業研究	物理化学演習	創薬化学								中間演習			卒論発表		
				創薬科学総論Ⅳ										構造化学演習	有機化学演習												
D-1. 臨床研究に関わる課題の探究や問題を解決する基礎的な能力を醸成する。			課題発見科目	学術アプローチ チ科目													実務実習ブレ演習										
知識・理解の応用(適用・分析)	C-3. 将来、指導的な立場で活躍できるよう、的確で総合的な判断力と課題を探究する基礎的な能力を習得している。			課題発見科目	学術アプローチ チ科目				薬学基礎実習Ⅰ+Ⅱ	薬学基礎実習Ⅱ+Ⅲ+Ⅳ	薬学基礎実習Ⅲ+Ⅳ	卒業研究	物理化学演習	創薬化学								アドバンスト実務実習					
	C-2. 治験や臨床試験のプロトコール作成などを通して医薬品開発の一旦を担う技能を習得している。																										
C-1. 国際的に活躍できる基礎的な能力を持っている。																											
			課題発見科目	学術アプローチ チ科目				専門英語		専門英語																	
言語文化科目		言語文化科目				言語文化科目				言語文化科目				言語文化科目				言語文化科目				言語文化科目					
知識・理解の習得(知識・理解)	B-3. 治験や臨床試験など、医薬品開発に関する業務、プロセス、法律一般について基礎的な内容を理解している。					薬剤学Ⅰ																					
	B-2. 医薬品の適正使用を推進するため、服薬指導・薬歴管理・リスクマネジメント・効果的で安全な薬物療法の提供など、薬剤師としての知識を持っている。									薬理学Ⅰ																	
B-1. 化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学及び医療系薬学を基盤とした幅広い知識を理解し、論理的に思考できる。	化学系薬学	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ 創薬科学総論Ⅳ		有機薬化学ⅠA	有機薬化学ⅡA	錯体化学	生物有機化学	天然物化学	創薬化学	医薬品合成化学A	医薬品合成化学B														
						有機薬化学ⅠB	有機薬化学ⅡB	有機薬化学Ⅲ	有機薬化学Ⅲ	医薬化学	有機反応化学																
						生薬学A	生薬学B	和漢医薬学																			
								構造解析学																			
						薬学系英語講義Ⅰ																					
						薬学系英語討論																					
	物理系薬学	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ 創薬科学総論Ⅳ		物理薬学Ⅰ	物理薬学Ⅲ		応用機器分析学	物理薬学Ⅱ	臨床検査学Ⅰ			物理薬学Ⅳ													
									放射化学																		
						薬学系英語講義Ⅰ																					
						薬学系英語討論																					
						薬学系英語講義Ⅱ																					
						薬学系英語討論																					
	生物系薬学	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ 創薬科学総論Ⅳ		生命薬学ⅠA		生命薬学ⅢA	生命薬学ⅢB	衛生化学Ⅰ	システム分子生物学A	システム分子生物学B	衛生化学Ⅱ	生命薬学Ⅳ	社会薬学												
医療系薬学	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ 創薬科学総論Ⅳ		生命薬学ⅠA		免疫学A	免疫学B				生命薬学ⅠB															
					薬学系英語講義Ⅰ																						
					薬学系英語討論																						
					薬剤学Ⅰ		薬剤学Ⅱ		薬物動態学A	薬物動態学B	薬物治療学ⅡA	薬物治療学ⅡB	漢方医薬学														
						生理学		薬理学Ⅰ	薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅰ																	
卒業研究	創薬科学総論Ⅰ	創薬科学総論Ⅱ	創薬科学総論Ⅲ 創薬科学総論Ⅳ		薬学系英語講義Ⅰ																						
					薬学系英語討論																						
					実務実習ブレ演習																						
					実務実習ブレ演習																						
					実務実習ブレ演習																						
					実務実習ブレ演習																						
主体的な学び・協働	A-3. プレゼンテーション及び討論の基礎能力を備えている。		基幹教育t3ナ					専門英語	専門英語																		
				課題発見科目	学術アプローチ チ科目																						
		健康スポーツ科目																									
	A-2. 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。	理系ディシプリン							理系ディシプリン																		
		文系ディシプリン							文系ディシプリン																		
			基幹教育t3ナ																								
A-1. 深い専門知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。	サイバーセキュリティー科目																										
	言語文化科目							言語文化科目																			
	卒業研究																										
学修目標		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
学年		1年生				2年生				3年生				4年生				5年生				6年生					
学士課程の時期区分						「導入・基礎」期								「発展」期								「統合」期					
アセスメント計画		基礎科目の習得度を成績分布や授業アンケートを通じて確認する。																									
		重点科目の知識・能力の習得度を、成績分布や授業アンケート、OSCE、CBTを通じて確認する。																									
		実務実習の到達度評価、「卒業研究」評価、薬剤師国家試験に基づいて、学修状況を評価する。																									

薬学部 臨床薬学科博士課程 カリキュラム・マップ

凡例

科目区分（再掲は薄色表示）

博士課程
必修科目

博士課程
選択科目

学年		D1		D2		D3		D4		
学修目標		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	最終試験
		先端医療薬学研究実験			先端医療薬学研究実験		先端医療薬学研究実験	先端医療薬学研究実験		
		先端医療薬学研究演習Ⅰ			先端医療薬学研究演習Ⅱ		先端医療薬学研究演習Ⅲ			
知識・理解の実践的場面での活用（実践）	E-3. 臨床や創薬の現場における共同研究に参画できる技能・態度を身につけている。	創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習			創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習		創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習	創薬・臨床コラボ実習		
	E-2. 深い知識・感性や高い倫理観を持ち、臨床薬学研究を実践できる。	創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習			創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習		創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習	創薬・臨床コラボ実習		
	E-1. 薬学の専門家として、医療・創薬の現場で活躍できる能力を持っている。	創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習			創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習		創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習	創薬・臨床コラボ実習		
新しい知見の創出（評価・創造）	D-2. 自ら主体的に臨床薬学研究を遂行できる。	創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習			創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習		創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習	創薬・臨床コラボ実習		
	D-1. 臨床と創薬の融合を意識して、研究を立案・実施することができる。	創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習			創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習		創薬・臨床コラボ実習 腫瘍治療学実習	創薬・臨床コラボ実習		
知識・理解の応用（適用・分析）	C-3. 自らの研究成果に関する論文投稿のノウハウを理解している。				創薬・臨床コラボ実習		創薬・臨床コラボ実習	創薬・臨床コラボ実習		
	C-2. 指導的な立場で活躍できるよう、的確で総合的な判断力と課題を探索する能力を応用できる。	創薬・臨床コラボ実習			創薬・臨床コラボ実習		創薬・臨床コラボ実習	創薬・臨床コラボ実習		
	C-1. 自ら持っている薬学的知識を生かし国際的に活躍できる。	創薬・臨床コラボ実習			創薬・臨床コラボ実習		創薬・臨床コラボ実習	創薬・臨床コラボ実習		
知識・理解の習得（知識・理解）	B-2. 臨床薬学の立場から、創薬研究の研究理論および技術を理解することができる。	腫瘍治療学Ⅰ 大学院共通教育科目 薬学府（修士課程） 開講科目	腫瘍治療学Ⅱ 大学院共通教育科目 薬学府（修士課程） 開講科目		学府横断型科目 大学院共通教育科目 修士課程における未受講科目		学府横断型科目 大学院共通教育科目 修士課程における未受講科目			
	B-1. 生体の調節機構や疾病に対して、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学および医療系薬学に裏打ちされた知識を持っている。	腫瘍治療学Ⅰ 大学院共通教育科目 薬学府（修士課程） 開講科目	腫瘍治療学Ⅱ 大学院共通教育科目 薬学府（修士課程） 開講科目		腫瘍治療学実習		腫瘍治療学実習			
主体的な学び・協働	A-3. 現象や技術情報を明確に記述する文章力と、自分の考えを明確に述べる表現力を備えている。	臨床研究演習 大学院共通教育科目 薬学府（修士課程） 開講科目	臨床試験演習 大学院共通教育科目 薬学府（修士課程） 開講科目		大学院共通教育科目 薬学府（修士課程）開講科目		大学院共通教育科目 薬学府（修士課程）開講科目			
		先端インターンシップ実習			先端インターンシップ実習		先端インターンシップ実習			
	A-2. 高度なプレゼンテーション能力を持ち、積極的に討論できる。	臨床研究演習	臨床試験演習							
	A-1. 自ら進んで幅広い分野に対する理解力を持ち、国際的発信力・学際的発信力を備えている。	大学院共通教育科目 薬学府（修士課程）開講科目			大学院共通教育科目 薬学府（修士課程）開講科目		大学院共通教育科目 薬学府（修士課程）開講科目			